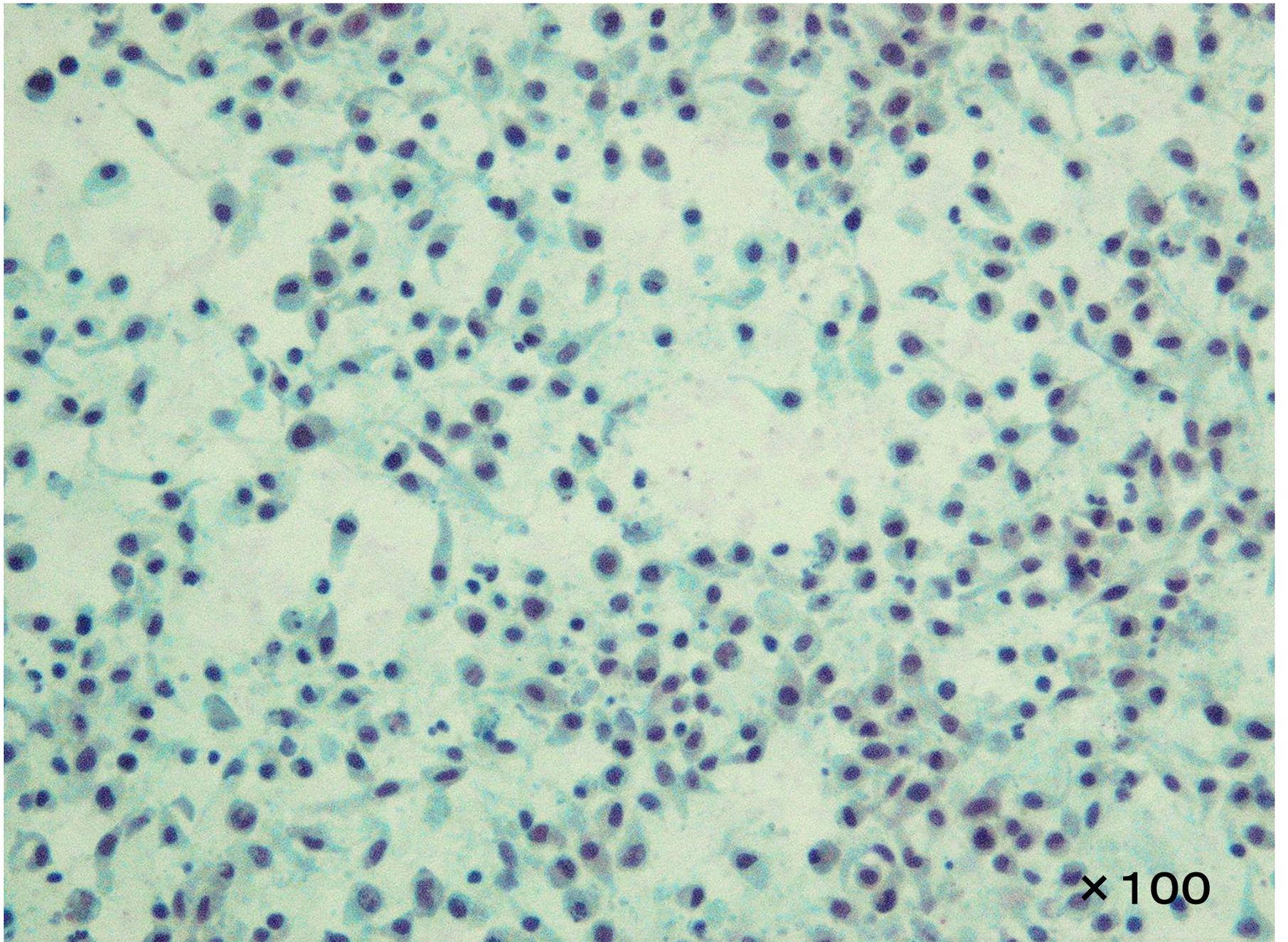


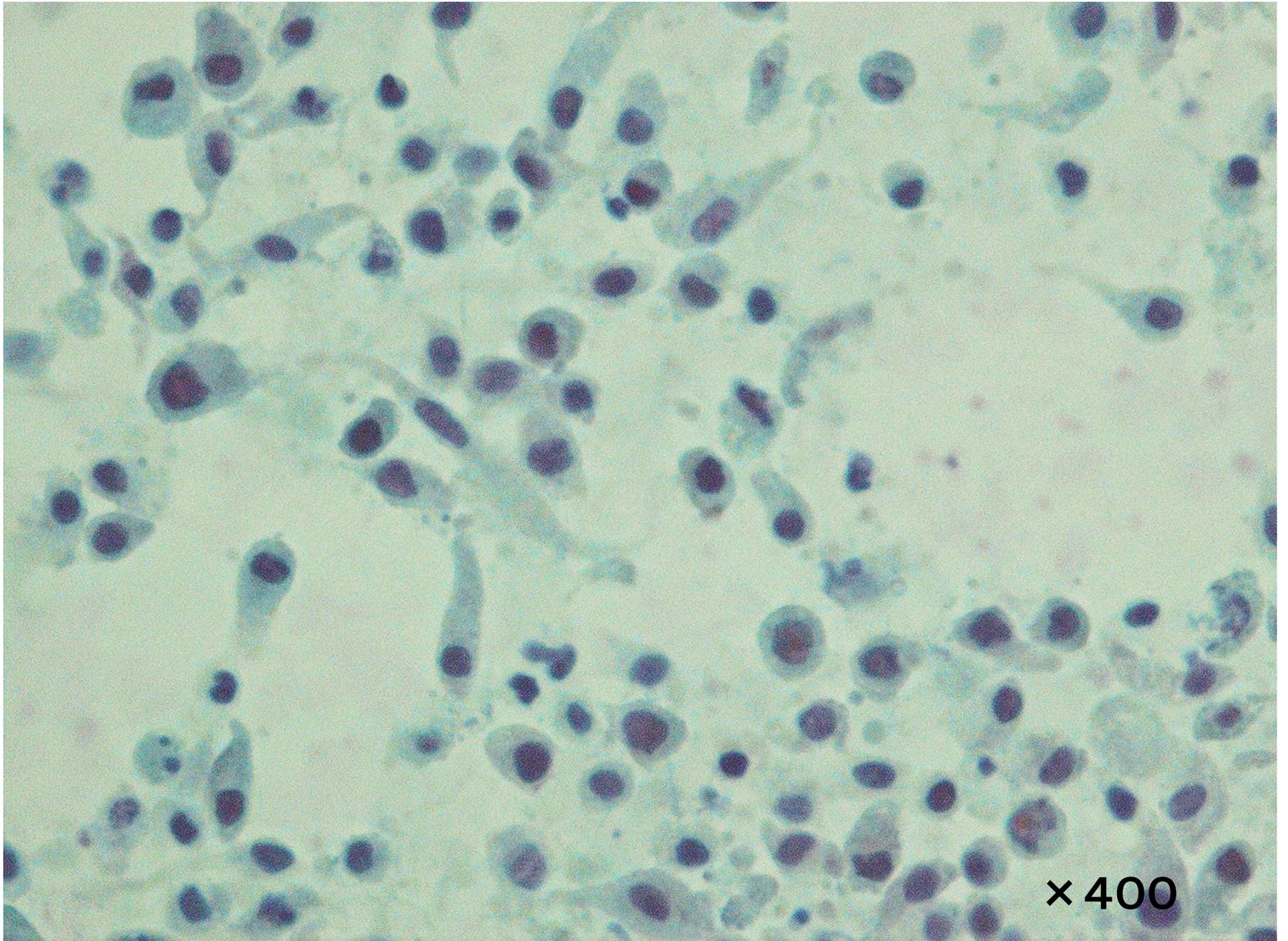
症 例： 75歳 男性

検査材料： カテーテル尿

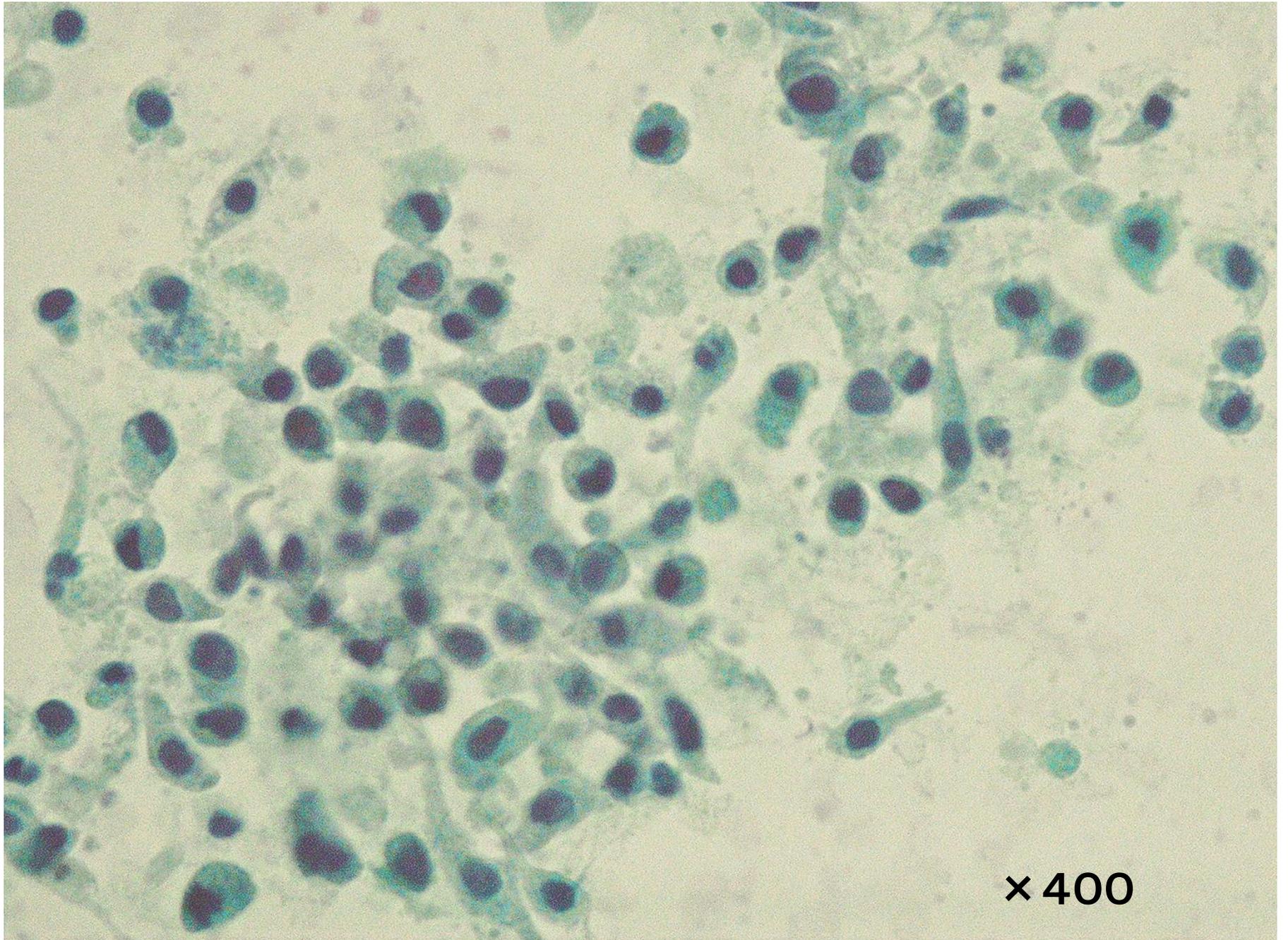
臨床症状： 肉眼的血尿

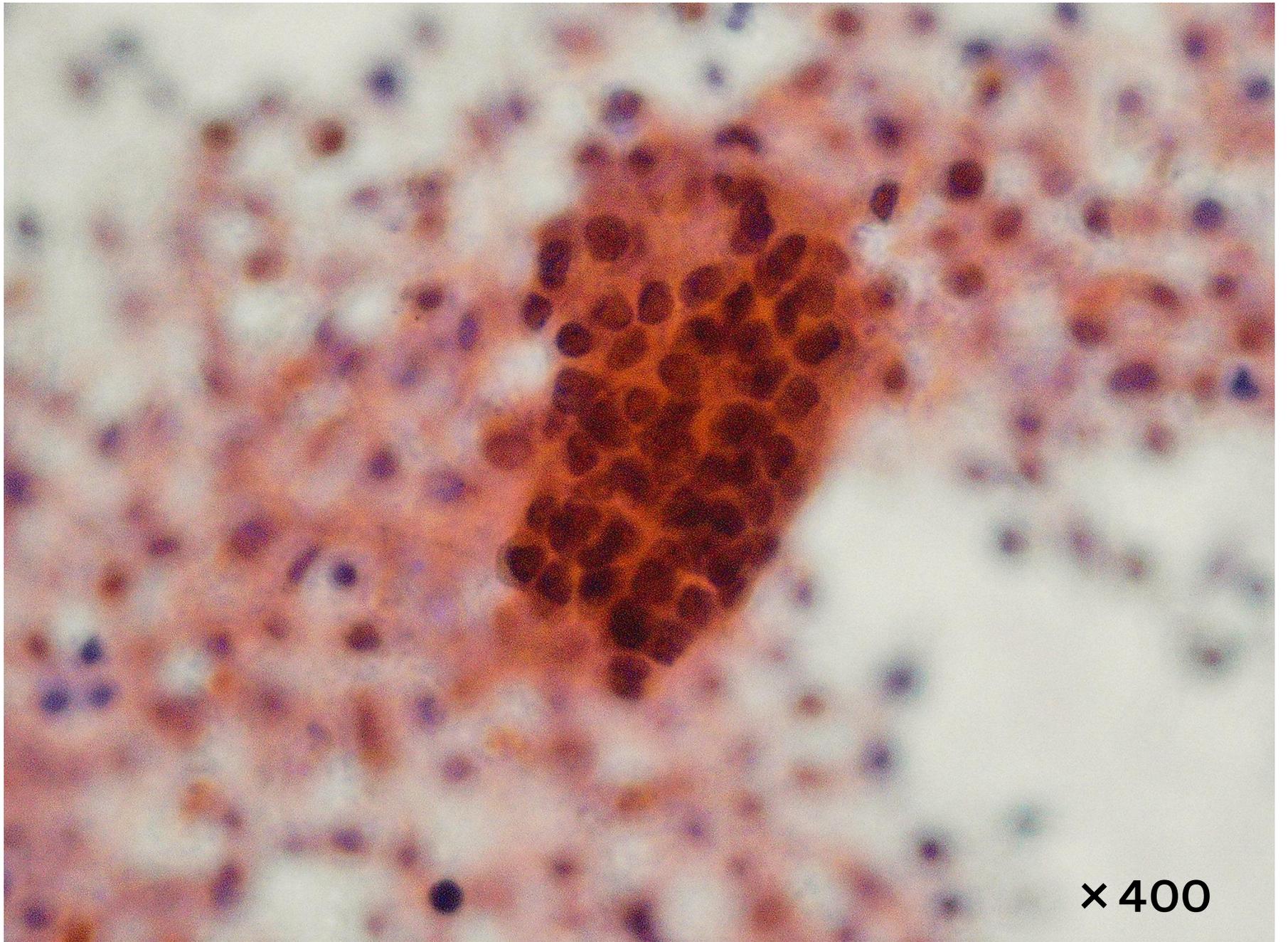


× 100

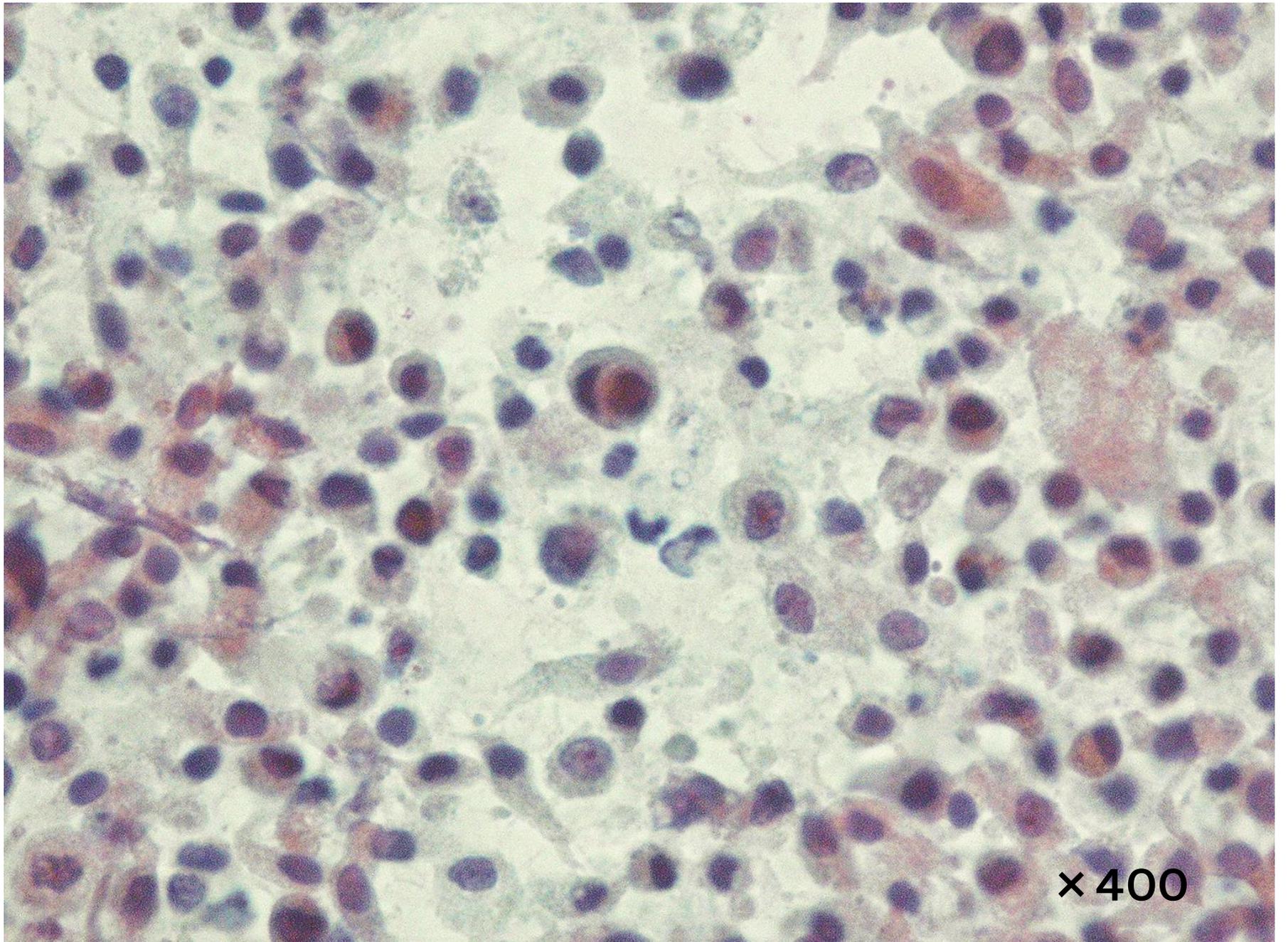


× 400





× 400



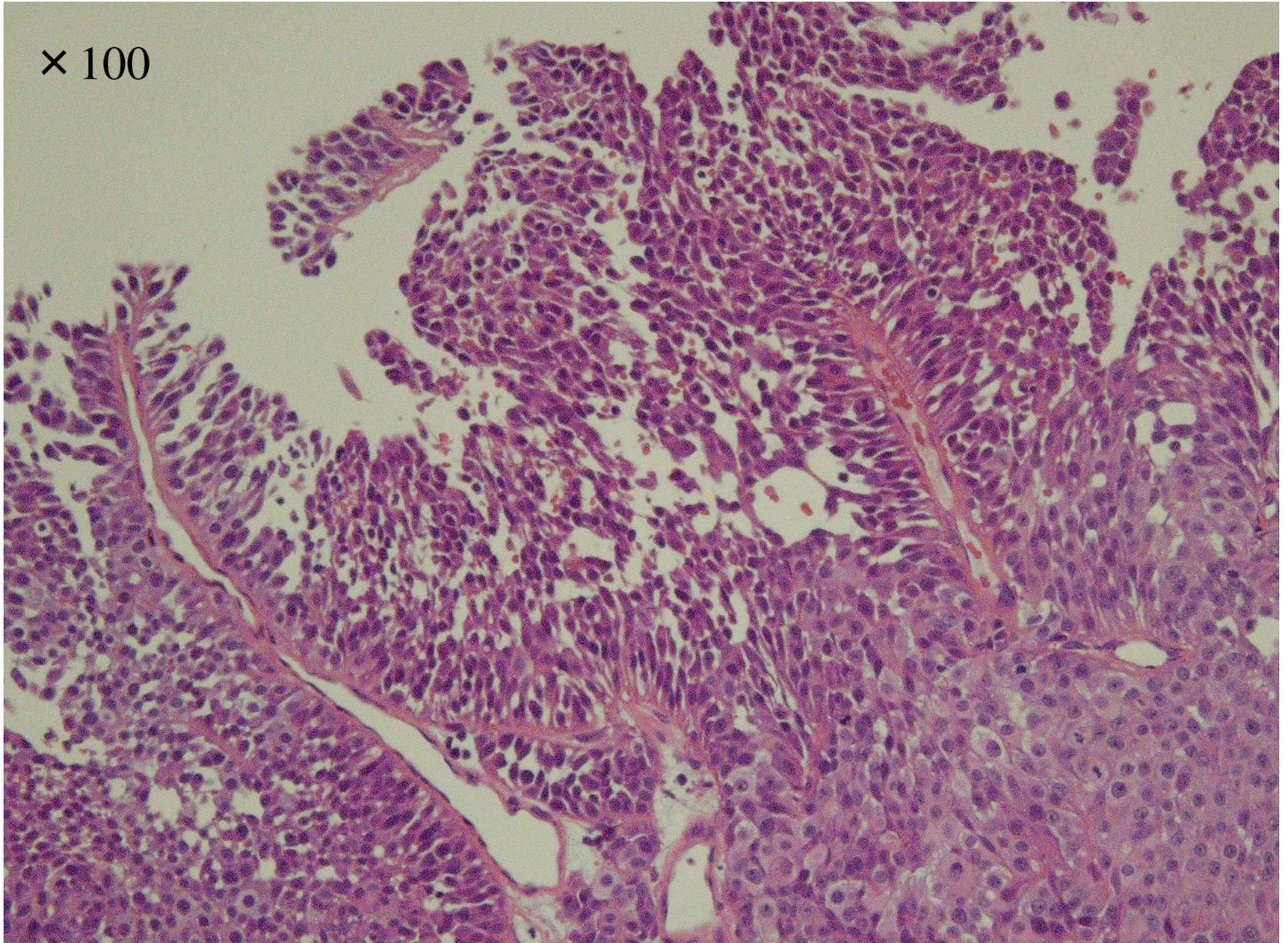
× 400

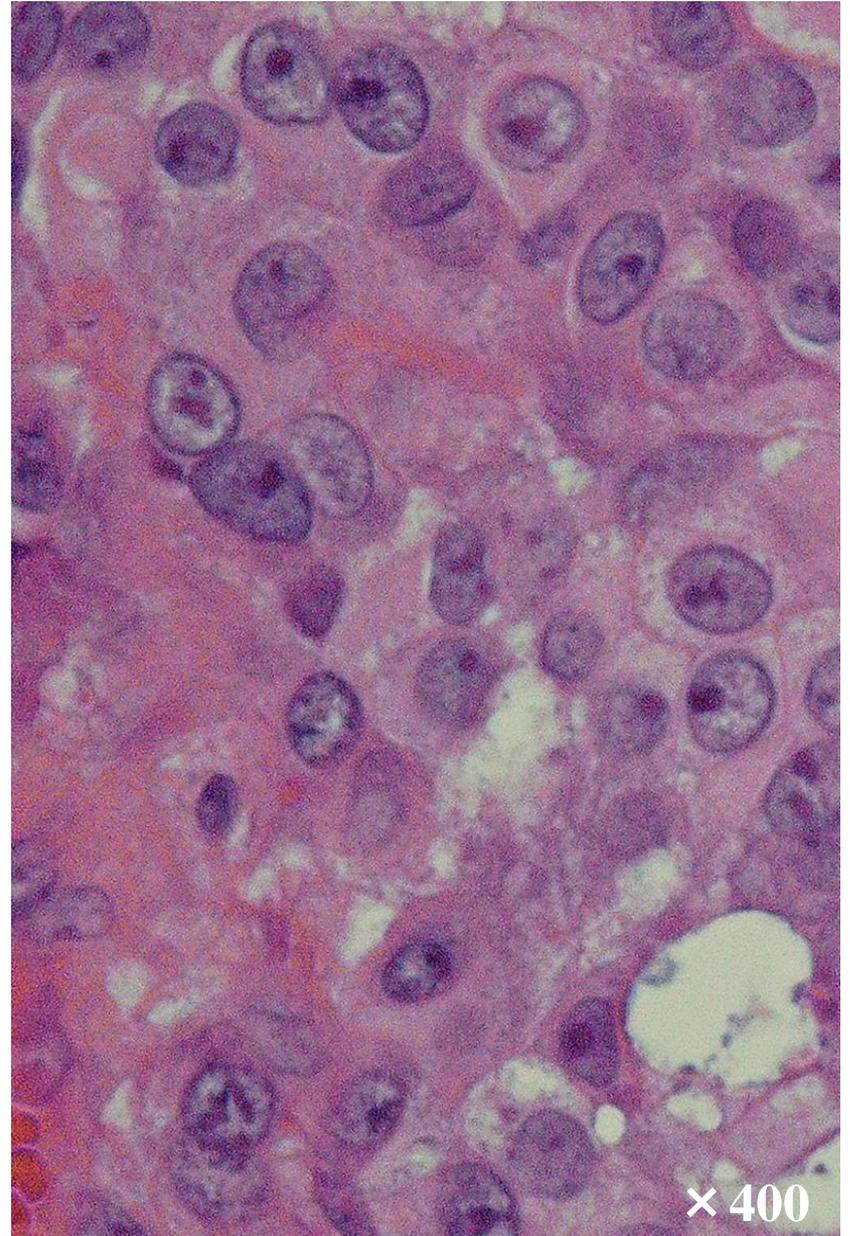
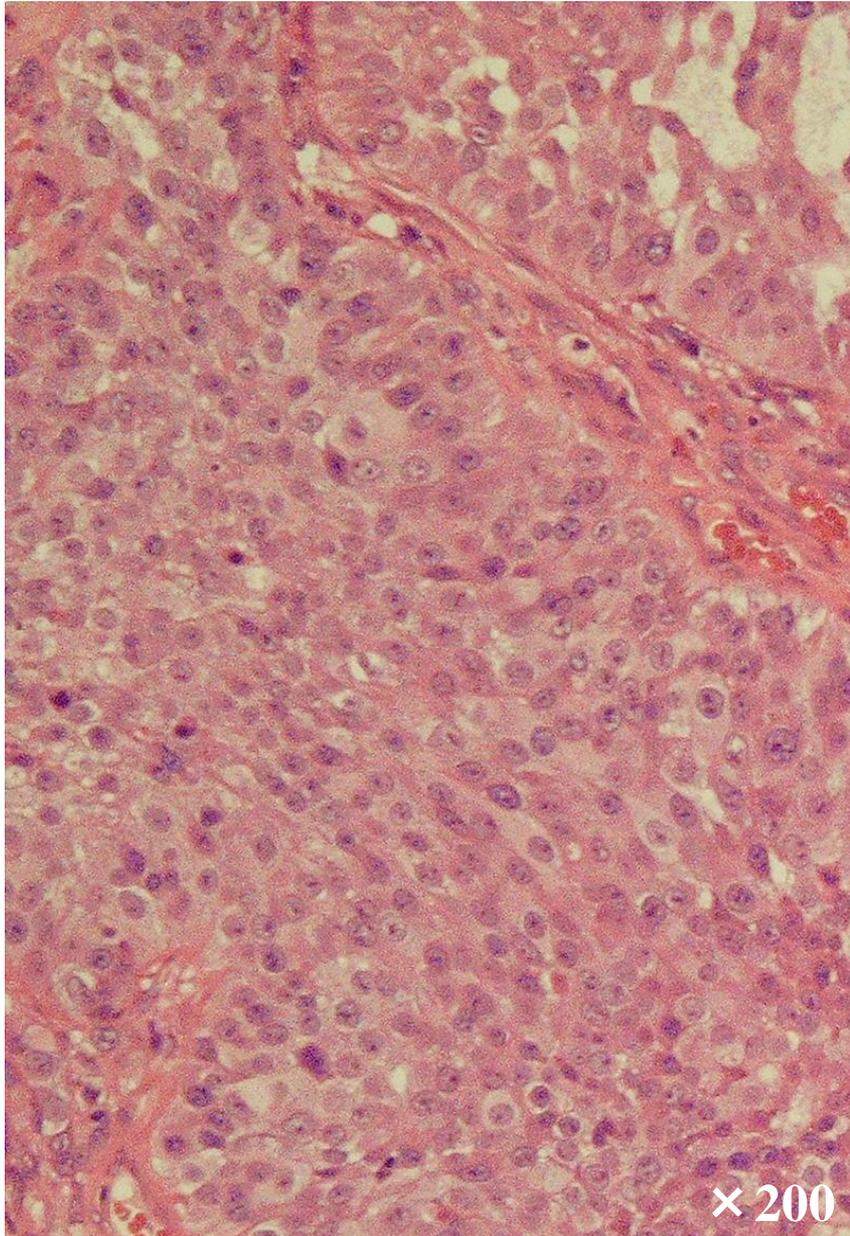
細胞診結果

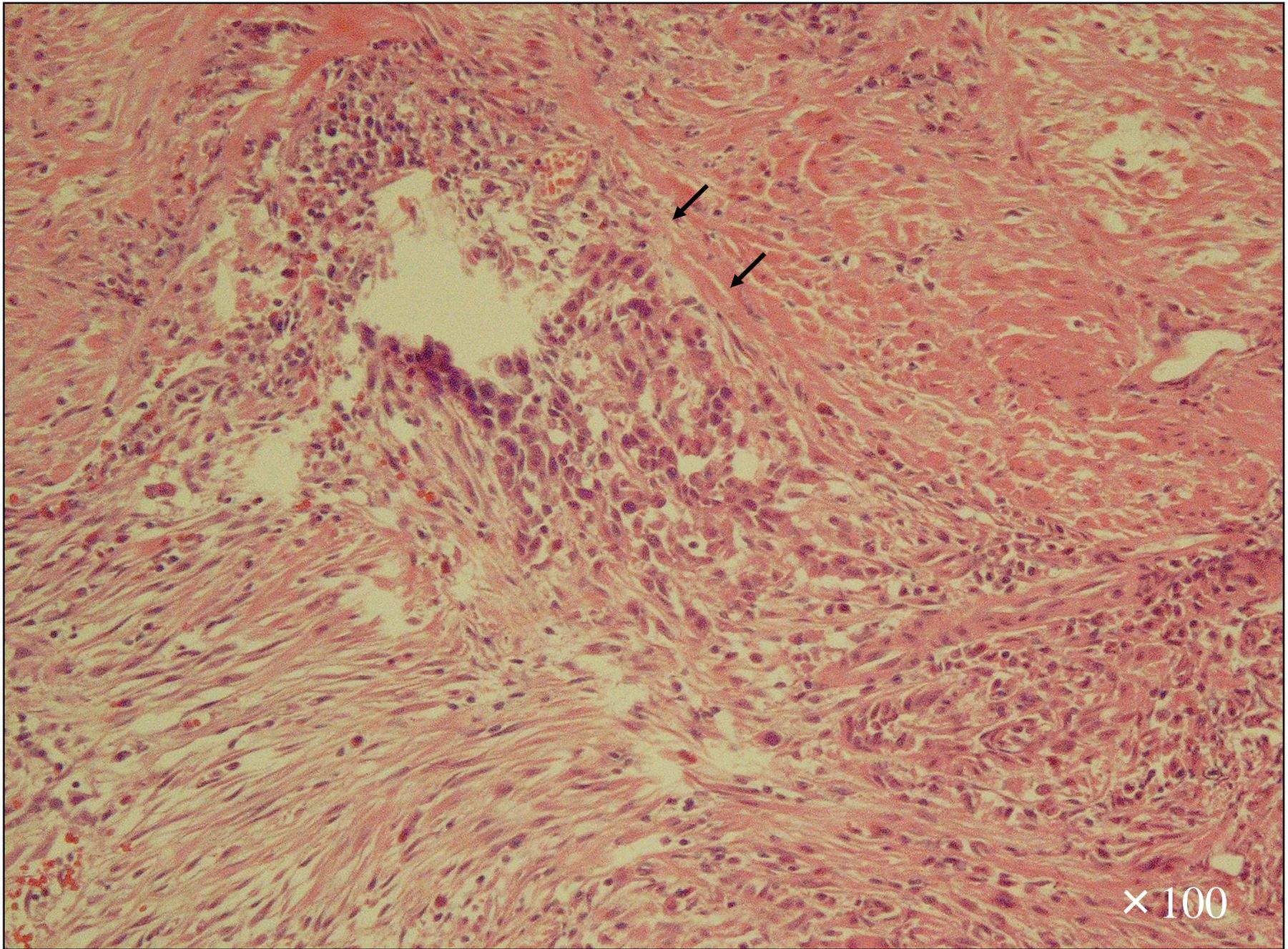
Class IV

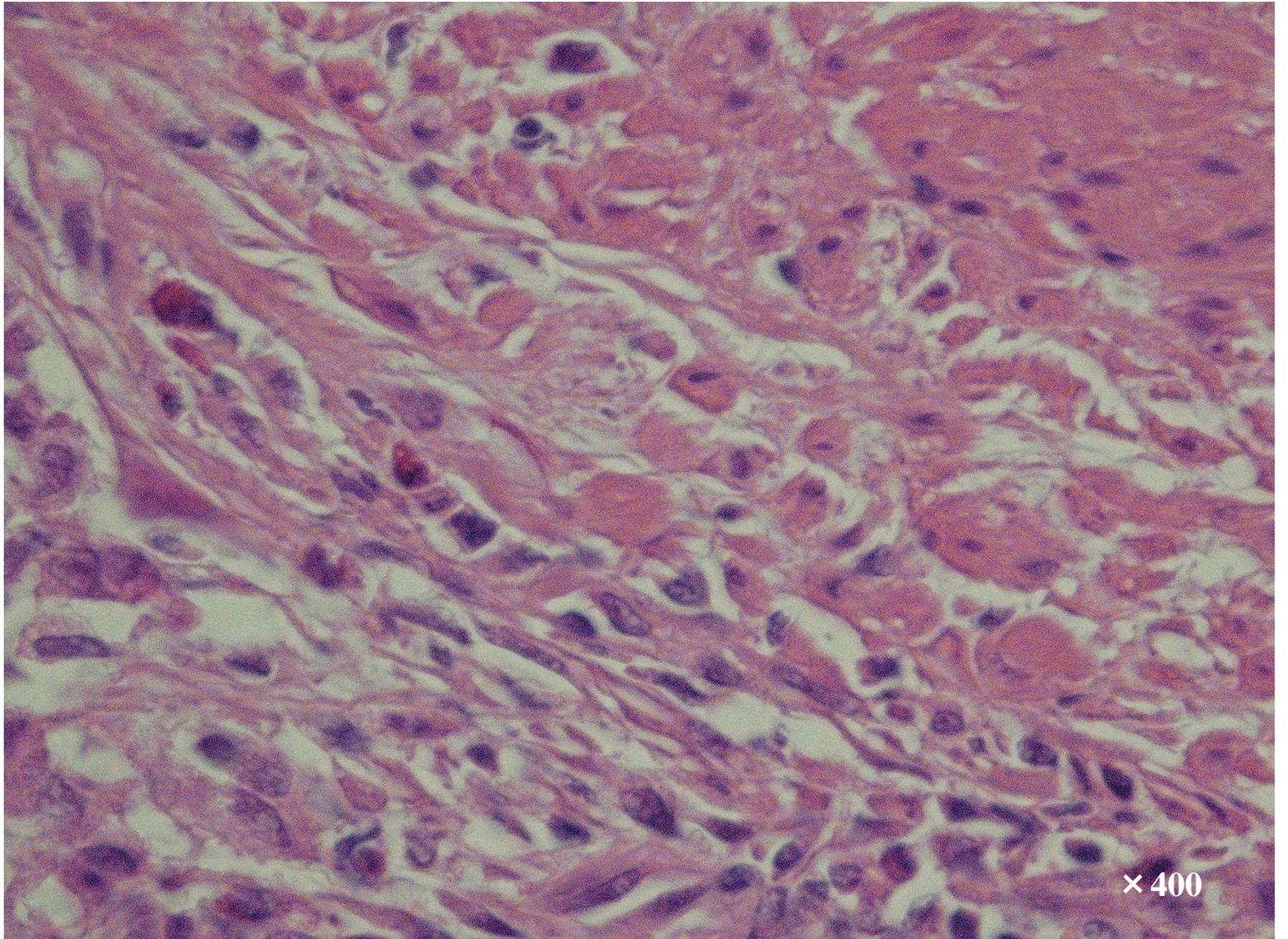
尿路上皮癌 (low grade) 疑い

× 100









× 400

病理診断

Invasive papillary Urothelial carcinoma, high grade

TUR of urinary bladder.

pT2, INFb, ly0, v0

浸潤性尿路上皮癌 (Invasive urothelial carcinoma)

腫瘍細胞が基底膜をこえて間質に浸潤する悪性尿路上皮腫瘍。粘膜固有層以下に腫瘍細胞が浸潤する尿路上皮癌の全てが含まれる

細胞診の悪性判定基準

- 細胞の増大、とくに核の増大
- N/C比の増加
- クロマチン増量と分布以上
- 核輪郭の不整と肥厚
- 核小体の肥大と数の増加
- 細胞集団における核の形と大小不同性
- 細胞集団における細胞配列の不規則性
- 封入細胞の出現
- 異常多核、多葉核の出現
- 核分裂像
- 悪性背景

細胞診の悪性判定基準

- 細胞の増大、とくに核の増大
- N/C比の増加
- クロマチン増量と分布以上
- 核輪郭の不整と肥厚(?)
- 核小体の肥大と数の増加
- 細胞集団における核の形と大小不同性 (軽度)
- 細胞集団における細胞配列の不規則性 (軽度)
- 封入細胞の出現(?)
- 異常多核、多葉核の出現
- 核分裂像
- 悪性背景

泌尿器領域では一般的な悪性判定基準に加えて

核の立体不整

細胞質の不均一性、脆弱さ

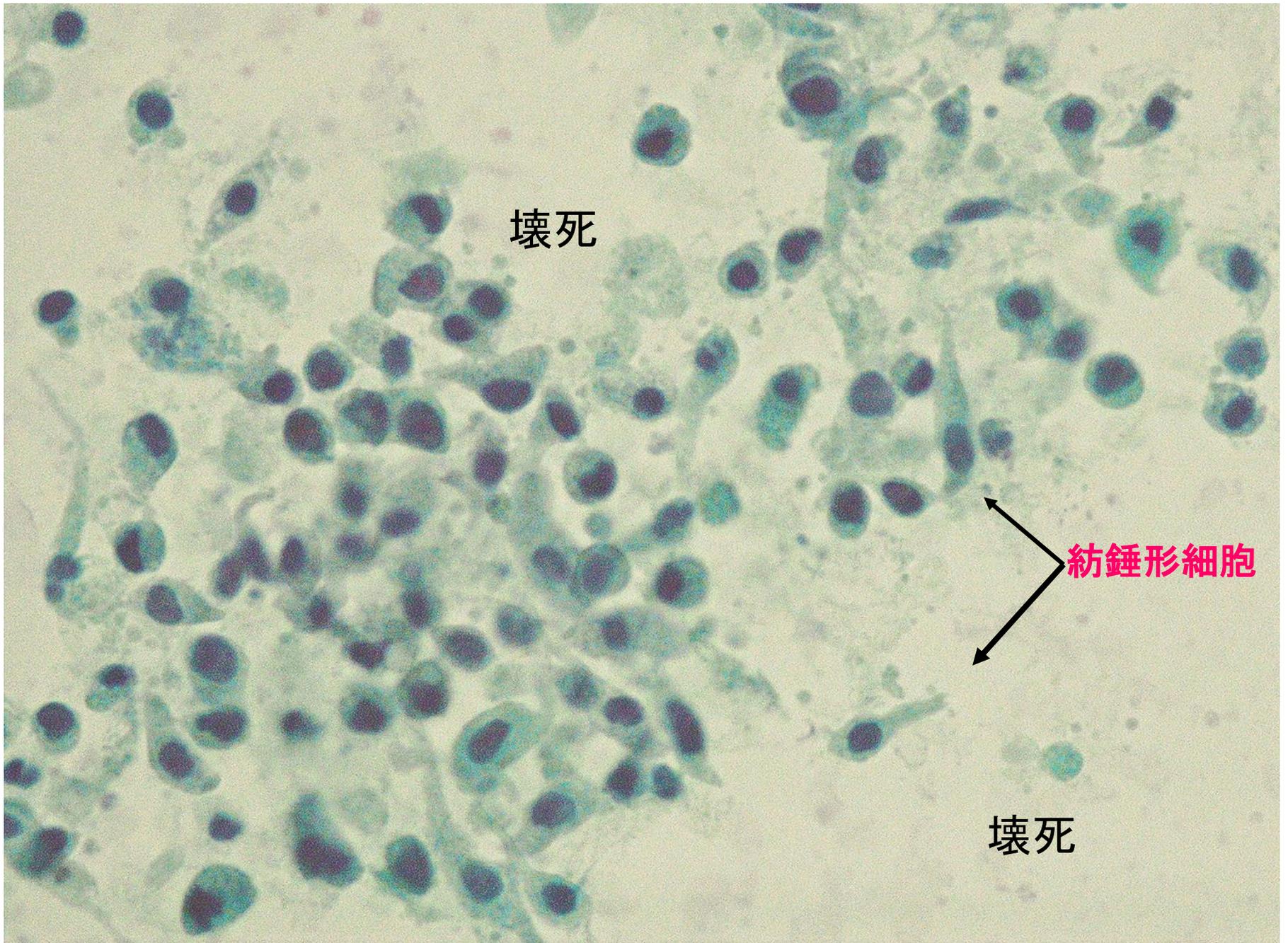
核偏在、核溝、紡錘形細胞

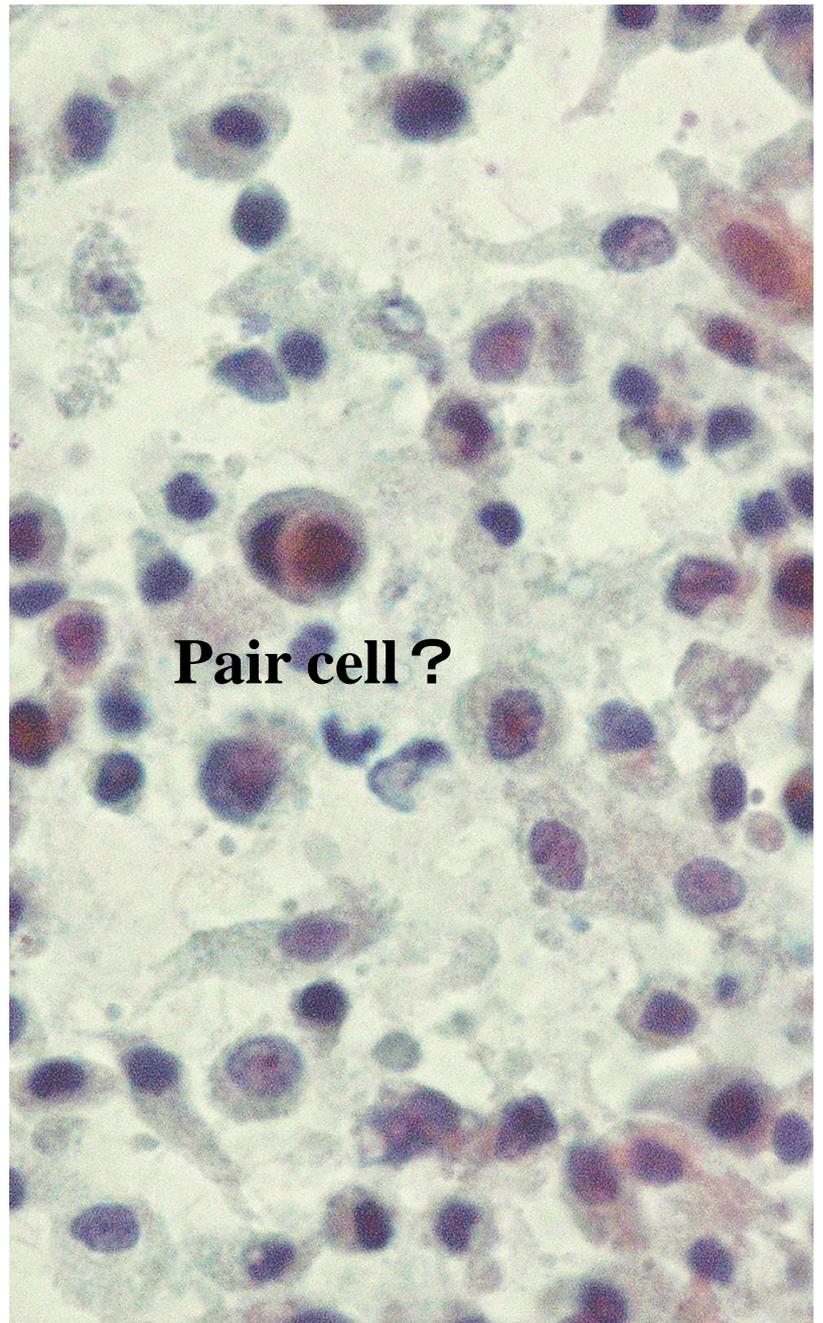
も考慮される。

壞死

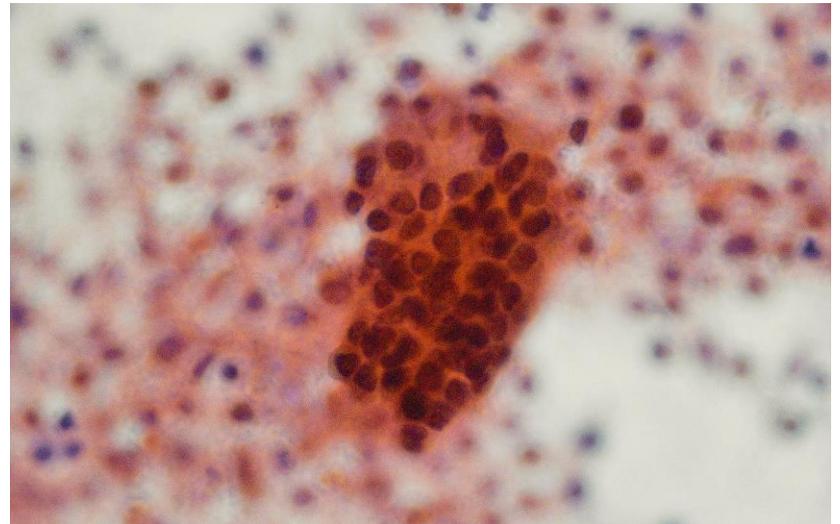
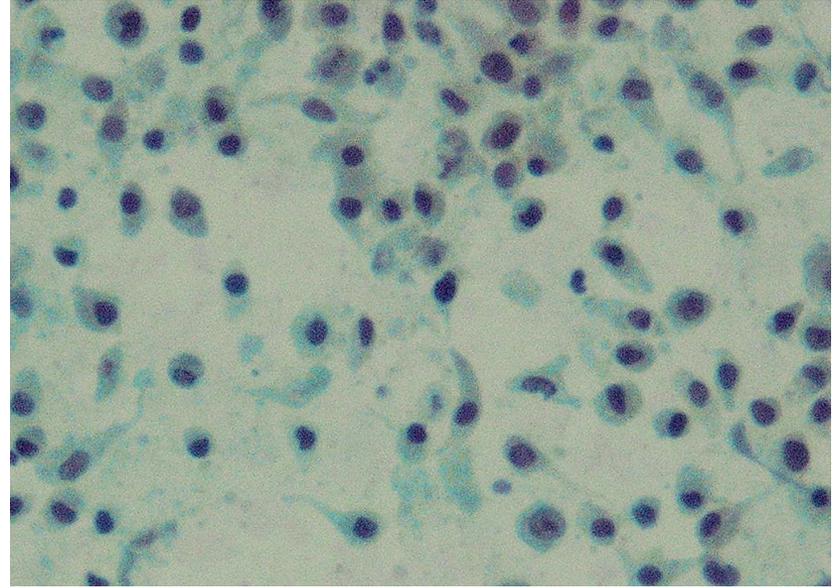
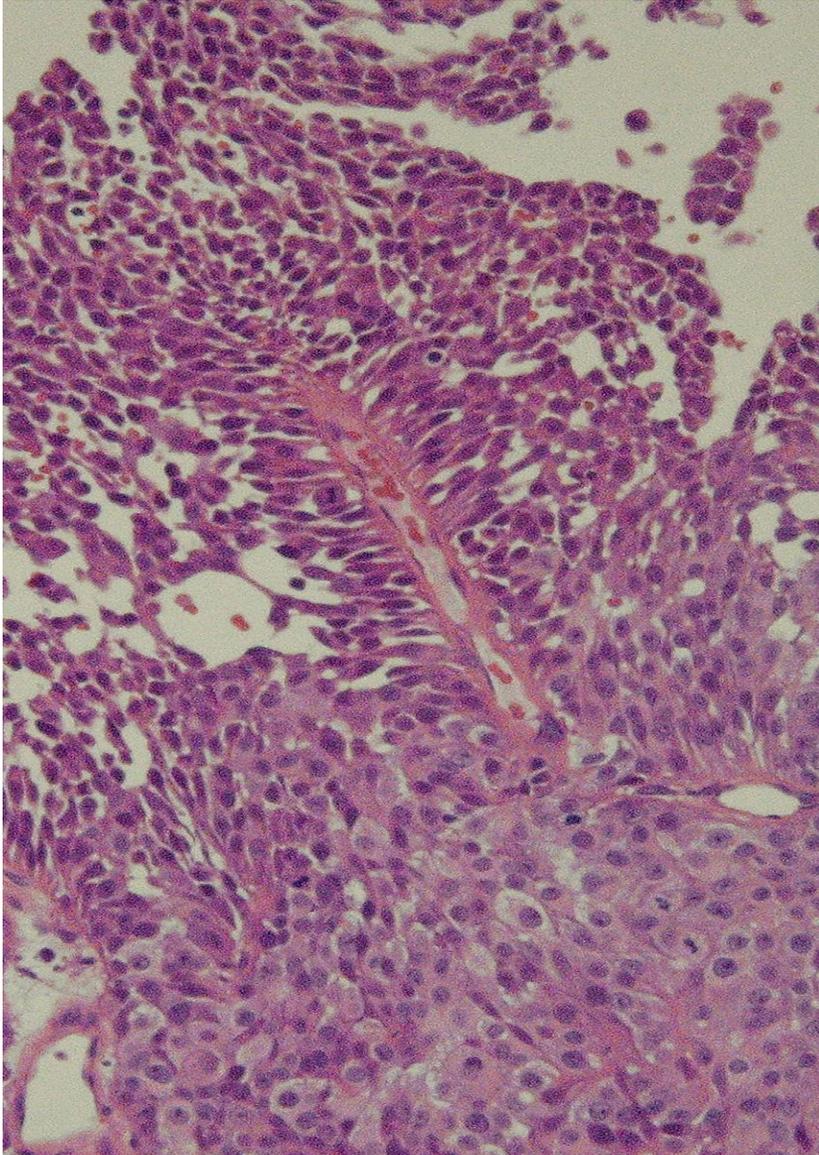
紡錘形細胞

壞死





組織像と細胞像



まとめ

- 壊死性背景
- 均一な細胞像
- 悪性細胞を疑う所見が少なからず認められる
- 紡錘形細胞の出現

以上の所見を認めた場合、尿路上皮癌の可能性を考慮し、組織検査をすることが望ましいと考えられる。